

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112201		
法人名	株式会社 秋田介護支援センター		
事業所名	秋田ひまわりの家 グループホーム		
所在地	秋田県秋田市下北手桜字新桜谷地85番地		
自己評価作成日	令和元年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームの理念「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」を中心に、個々の個性を尊重し、互いに思いやりの気持ちを待って生活していけるように支援しております。
 ・2階がグループホームで、1階に併設しているデイサービスの方々と交流し、馴染みの関係を築いております。
 ・月に18組位の様々なボランティアの方々が歌や踊りを披露しにいらっやっており、参加希望の入居者様が参加し、楽しめるようになっております。
 ・定期的に屋外へ出かけ、季節の変化を感じられる行事に参加して頂き、気分転換できるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」と常に意識し、普段から利用者の好きな事や利用者の思い等、利用者を優先しながら生活に密接にかかわっている施設である。重度者になり対応が難しくなっても、できるだけ長く馴染みの施設で生活して欲しいと、断ることなく支援している。施設に入ると寝たきりになるという印象がなくなるよう、車椅子でも風船バレー等身体を動かす機会を作ったり、ネットで歌番組を流し、頭と身体的機能の低下を防止している。医療との連携がとても優れており、安心して生活できるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のスタッフミーティングで理念の確認を行っております。 日々の出来事や、様子を職員同士で確認し、入居者様の気持ちを理解できるように努力しております。	元々あった理念を見直し、「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」と短く簡潔にまとめ、利用者が書道で書いたものを、ホールに掲げている。利用者の気持ちを考える事が大事と考え、気持ちを共有し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同施設のデイサービスの利用者様との交流を行ったり、町内会の清掃行事に参加や、地域の敬老会に参加しております。天候が良ければ、下北手小学校の運動会にも参加しております。	18組のボランティアが登録しており、毎月色々な方との交流が盛んに行われている。竿燈の時期には演技を楽しんだり、近隣の高校の吹奏楽部が演奏に来てくれたりしている。町内の清掃に参加したりと、日常的に地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、地域の民生委員、社会福祉協議会、家族の方へ制度や対応の説明を行い、理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や、身体拘束防止、防災、ヒヤリハット、事故報告についての報告を行い、話し合いを行い、今後の施設運営の助言を頂いている。	ヒヤリハットはなぜ起きるのか、どうすれば防げるのか等、活発な意見交換が行われている。会議を通して出された「安心キット」を参考に、救急搬送の際、救急隊員に渡せばその人の事がわかるようになっている書類を作成したり、意見や要望をサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等があれば、連絡や訪問し、改善点を確認しております。	困難事例等、包括支援センターと連携し、県や市と掛け合いながら解決したり、相談しあえる関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外の研修に積極的に参加をし、社内での全体勉強会を行い、全体の職員の理解を深められるようにしております。 スタッフミーティングや、全体勉強会の際に3つのロックと3つの条件について確認しております。 参加出来なかった職員へは資料配布し周知しております。	定期的に勉強会を行い、身体拘束に関わる意識を高め拘束のない支援に努めている。また、運営推進会議でも、身体拘束についての話し合いを行ったりと、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃言葉の抑制がないように、社内の全体勉強会や、社外研修に積極的に参加をして理解を深め、防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部での研修を予定しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・運営規定などをもとに、入居者様や、ご家族様に対し、疑問点が無いか確認して理解・納得して頂けるよう説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、ご意見箱を設置しております。電話や、ご家族様来所時や、ご本人様より意見を確認しております。今年度も秋田ひまわりの家・新聞を通じて、アンケートを実施してサービス利用についての意見をお伺いする予定です。	新聞委員会が毎年3月・9月に家族にアンケートを送っており、改善して欲しい事等を聞き、事業所新聞に結果を報告し改善している。スリッパの汚れや、オムツの置き方等、細かな所まで意見を参考に支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている、スタッフミーティングや、管理者会議・全体会議を行っております。運営に関して意見を確認する機会を設けております。	車いすのまま体重を測れる体重計や、介護用品の当て方等、職員通し話し合い、工夫しながら反映させている。スタッフミーティングで出された意見は管理者会議等を通し、代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や、全体会議を開催し、要望や働きやすい環境を確認できる機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回以上は全職員が外部の研修へ参加し、スキルアップが出来るようにしております。新人には指導役を決め、介護の方法や、理念・入居者様の想いや、個性を理解できるよう指導しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会に参加しており、秋田市のグループホームとの情報交換や、勉強会等に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の時点では、ご家族様の困っている事、不安などを事前に確認できるように、事前訪問や、電話確認しております。またご本人様が利用している施設や、ケアマネージャーにも同様に確認をし、初期の関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護状況やご本人様との関係性、経済状況をお伺いし、今後の生活をご本人様と一緒に考え信頼関係を築けるように努めております。入居後は、電話や写真付きあいさつ文を利用して生活状況を報告しております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人様の個々に合った役割を持つように、食器拭きや、洗濯たたみなどを一緒に行い、共に過ごしております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や、毎月写真付きあいさつ文を送付して、近況報告しております。また、ご家族様と外食や、法事などで、ご希望に合わせて自由に外出して頂き、ご家族様との時間を共有できるようにしております。家族対応が困難な車椅子の方でも職員付き添いで対応しております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々ご家族様希望で近くの親戚の方の家に行かれる方がおり、ご本人様・ご家族様の意向に沿って、ご家族様と協力し、関係性を保てるようにしております。	お盆の墓参り等、家族の協力のもと関係継続ができるよう支援している。本人に、どこに行きたいかを確認しながら本人家族の意向に沿えるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮して、一緒にできる家事作業の支援や、入居者様皆様が参加できるようなレクリエーションを考え実施しており、孤立しないよう注意しております。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、情報提供や手続き等の支援を気軽に相談してもらいたい事をお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様からの意見や、普段の生活状況・表情・会話など、意見を取り入れ、暮らしやすい環境を整備し、困難な方でも同様の事を踏まえ、望む暮らしに近づけるように努めております。	普段と違う行動や表情を見てアプローチしたり、取り留めなく話している時も遮ることなく同調したりと本人の意向を把握できるよう努めている。また、ジェスチャーを大きくし、選択式の質問を行う等、工夫しながら検討している。帰宅願望がある方にも、否定せず、一緒に出掛けるなど、本人本位に支援している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活史への記入をして頂いてもらっています。ご本人様や、ご家族様からも聞き取り、把握できるようにしております。また、介護サービス利用があった方は、その関係者からも生活状況を確認して経過を確認しております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、記録を元に、その日の精神状態や、身体状況を確認しております。毎月のスタッフミーティングで、有する力の把握等の現状を話し合い、共有し、各職員で対応の差異が生じないように注意を行っております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書の原案を用いて、本人・家族と話し合いを行っている。また、提携している医療関係者や職員と随時話し合いを行い、介護サービス計画書に反映して作成しております。	居室の担当は決まっているが、スタッフミーティングで皆で話し合い、作成している。本人や家族の意見や要望、医師の意見も取り入れられている。家族からは医療面についての要望が多く、都度医師に相談し、医師の意見を家族に伝えながら介護計画を作っている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践を記録し、申し送りや、スタッフミーティングで気づきや、ケアの工夫、対応の確認をするようにしております。ご本人様の状態に変化が生じた際には介護計画の見直しを行っております。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との清掃活動や、地区敬老会に参加しております。同敷地内の1Fデイサービスに来ているボランティアとの交流機会があり、その中には、施設前にある高校様の吹奏楽部の慰問もあり、地域密着しつつ、皆様が楽しめるよう支援を行っております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のご希望を確認し、かかりつけ医との関係を継続されるよう確認しております。現在は協力医院の往診を全ての方が希望されております。また必要な時に歯科医の往診もあります。	医療との連携が図られており、細かい事も常に報告していて、いつでも医師がオンコールで対応してくれている。眼科等の受診時に家族の対応が難しい時は職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との契約により、週一回の訪問看護と協力し、体調管理を行っております。日々のバイタルサインや、食事量・体重・排泄状態などを確認して、主治医との連携を実施しております。 突然具合が悪くなった方がおりましたら、24時間電話で協力病院の看護と連携し、対応を行っております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、主治医・看護師・相談室やご家族様との電話連絡や、面会を行い、病状について共有して退院のめどが何時になるかを確認し、早期の退院が出来るようにしております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的に将来像を話し合い、終末期における対応を確認するようにしております。協力病院の医師へもグループホームの方針を伝え、必要に応じ話し合いを重ね協力して頂けるよう依頼しております。	医療行為を行う必要がある時は対応出来ない事を契約時に説明しているが、それ以外であれば都度話し合いを重ねながら支援している。医師との連携は出来ており、いつでも対応してもらえる状況にある。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、心肺蘇生法や、緊急時の対応を職員全員が受講できるようにしております。 また、急変時に誰でも、すぐに対応できるように緊急時連絡先・生年月日・住所・電話番号・年齢・既往歴等を一つの用紙にまとめて記入しており、すぐに緊急時に持ち出し、救急隊の方に情報提供をできるような態勢を整えております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのものと避難訓練や夜間想定避難訓練では、同じ敷地内の宿泊サービスと共同で避難体制を確認しております。 運営推進会議を通し、避難誘導の仕方などを話し合い、マニュアルを作成し、常に更新しております。	年2回の消防立ち合いの訓練以外にも避難訓練を行っている。日中・夜間それぞれの想定のもと、同法人のデイサービスと合同で訓練しており、水消火器の使い方や、ベルの鳴らし方等練習している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の空間が保てるように、ご本人様が一人で過ごしたいときや、共に一緒に過ごす時間を持つことができるよう職員同士確認し、配慮しております。排泄時の声掛けでは、羞恥心や周囲への配慮を行い、さり気なく移動できるようにしております。	入浴時は肌が見えないよう、オムツ交換時はドアを閉め、トイレの時はカーテンを閉める等、配慮しながら支援している。また、ケース番号で管理しており、個人名が出ないように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話・仕草から、表現が困難な方であっても声掛けを行い、確認しており、ご本人様のご要望がありましたら、意向に添えられるようにしております。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様希望のもと、ご家族様や関係者と共同して希望が添えられるように支援しております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな衣類や傾向を踏まえ、おしゃれを楽しめるようにしております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には旬な季節の物を取り入れ、入居者様と一緒に食器拭き、片付けなどを行うようにしております。	普段から皮むきや皿拭きの他、餃子を作ったりと、利用者と職員が一緒に行っている。一気に食べてしまう方に対し、職員間で話し合い、ミキサー食に変更したりして、みんなが食事を楽しめるよう工夫している。運営推進会議ではお弁当を作って食べて頂き、意見を聞いて参考にしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や1日の水分量の確認、また排尿、排便状態・気温を踏まえ水分量が不足していないか注意しております。ご本人様の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を変え、自力摂取できるように工夫しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操や、食後の歯磨きができるよう、声掛けや介助を継続的に行っています。また水分にトロミを使用している方で、口腔ケアでうがいでもせ込んだり、上手くうがいが出ない為に、歯磨きティッシュで対応している方もおります。また、定期的ですが、歯科往診にて義歯の調整や口腔状態について確認することもあります。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	独自のチェック表で排泄間隔を職員全員で把握し、トイレでの円滑な排泄ができるよう、時間を見て声掛けや仕草から失敗しないように努めております。出来るだけおむつの使用を減らし、自立に向けて取り組んでおります。	その人の排泄のタイミングを把握し、その時間の前に誘導し、失敗しないよう支援している。排便はなるべく野菜を多く採れるよう配慮し、2日をめどに薬でコントロールしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品の摂取や水分摂取量の確認、体操や散歩などの運動を取り入れ予防しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や意欲、バイタルサイン、予定を確認し、特に入浴日や時間は決めず、ご本人の意思決定のもと入浴することが出来るようにしております。	本人の希望に沿っていつでも入浴が出来る体制となっている。入浴拒否がある人にも週3回は入浴できるように声掛けに工夫しながら支援している。車いすの利用者も職員二人対応で湯船に入れるようにしている。温泉の素を入れたい利用者にもきちんと対応し、入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動機会を持って頂けるよう日課を行い、生活リズムを持てるようにしております。 ご本人様の生活ペースや就寝時間を確認し、ゆっくりと眠れるようにしております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、訪問看護と連携し、薬の効果や副作用について確認しております。誤薬が無いよう、複数の職員で服薬内容をチェックし、確実に服薬できるようにしております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の生活歴や、個性を踏まえ、役割としての洗濯たたみ・調理・片付けなどを行っております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望に合わせて、季節行事を企画し、みんなで外出して楽しむ機会を持てるようにしております。ご家族様と外出し、外食へ行かれる方もいらっしゃいます。	季節感が感じられるよう、敷地内の散歩を行う他、動物園や太平山、水族館や博物館等外出を楽しめるように支援している。また、外食や選挙など、個々の希望に沿って職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の要望に合わせて、必要なものがあれば、一緒に買い物に行き、商品選びや支払い支援を行っております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の要望に合わせて、電話の希望があれば、ご家族様と会話ができるようにしております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	急な大きな音に注意し、混乱が起こらないように支援しております。季節行事に合わせて、室内の展示物を変更し季節の変化が感じられるように努めております。室温・湿度に注意し、各居室・共有部分に温度・湿度計を設置し、加湿器やエアコン等を利用して室内環境を調節しております。	共有スペースには行事の写真や、季節が感じられるような掲示物、利用者さんが作った作品等が飾られている。室温や湿度にも注意を払い、過ごしやすように配慮している。	疾患があっても皆と過ごしているという雰囲気の中でくつろげるよう、ホールに布団を敷いて横になれるよう配慮している。今以上にホールでゆっくりと休めるような環境作りに期待します。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファや長椅子を設置し、気の合う入居者様同士が、ゆっくりと談話出来るようにしております。個々の居室は私的な空間として、ゆっくりと過ごせるように、必要以上の訪問に注意しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、衣類・食器・家族の写真などを居室に持ち込み、馴染みのあるものを持ってきて頂き、回想できるようにしております。	趣味の和裁の作品を飾ったり、居室に電話を置き、家族が定時に連絡をくれる体制になっていたり、その人に合った居室作りが行われている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各共用部分のトイレや風呂場などに表示をし、視覚で確認しご自身で移動できるようにしております。また居室やホール、階段、トイレと手すりを設置し、転倒への予防や段差の無いように確認しております。		